

授業概要

教育心理学についての基本的な知識や概念を体系的に理解し、基礎的知識を習得させる。教育心理学を通じて、人間の発達、動機づけ、学習方法、集団力学といった古典的内容からいじめ、不登校といった学校不適應問題、また、ごく最近の話題である子どもの貧困、多様性などへの関心を持ち、理解を深めるように講義する。

授業計画

第1回	オリエンテーション（授業のねらいと内容の概観）
第2回	発達とは何か
第3回	発達と教育（人間は変わる）
第4回	学習の基礎（発達段階・レディネス）
第5回	学習理論の展開と特徴
第6回	性格形成と教育の役割
第7回	学級集団の教育心理学的意義
第8回	集団の発達について考える
第9回	集団不適應の諸相
第10回	不適應から適應へと導くには
第11回	社会的スキル教育の理論と実際
第12回	特別支援教育とは何か
第13回	多様化する障害について理解する
第14回	障害のある子どもの指導と支援の方法
第15回	学校内における連携、学校外機関との連携の実際
第16回	試験

到達目標

- ・教育心理学の基本的な知識や概念を理解し、説明できる。
- ・将来、社会人として生きていく上で、学習した内容を生かすことができる。
- ・学習を通じて、教育心理学や心理学に興味を持つことができる。

履修上の注意

- ・グループワークを取り入れます。グループ毎に発表します。
- ・教育心理学はもちろん、心理学を学習する意欲があること。

<重要> 中学校・高等学校の教員免許状取得のための教職課程登録者は本授業を受講できません。

予習・復習

・授業中に、次回の学習範囲を伝えるので、テキストの該当箇所を3回音読してから授業に臨むこと。復習も授業で学んだことを頭に浮かべながら再び教科書を3回読む。黙読ではなく、音読すること。

評価方法

評価基準は授業への参加と発表(3割)、授業中の課題への取り組み(3割)、期末試験(4割)である。

テキスト

安齊順子・荷方邦夫（編）『「使える」教育心理学』（北樹出版）